

# 環境週間 2014 報告書

——「週間」から「習慣」へ——

2014年6月16日（月）～21日（土）

**【主催】** 環境サークル E.C.O.

2014年12月13日

## 環境週間 2014 報告書の発行にあたり

近年においては、ボランティア活動がさかんに行われています。一昔前までは我々の社会は、主に企業の営利活動や地方自治体の公共サービスで支えられてきました。しかしながら、社会で必要とされながらもそれらでは担いきれない役割があり、そのような活動にボランティアとして非営利目的で積極的に参加しようとする人々が増えてきています。1998年に施行された非営利活動促進法（NPO法）では、このような社会貢献活動を促進することが目的とされ、現在では数多くの特定非営利活動法人（NPO法人）が認証を受けて活動しています。以上のような社会の変化により、ボランティア活動はもはや珍しいものではなく、大学内においても同様な趣旨で様々な活動が行われています。

私共環境サークル E.C.O.では、環境負荷の削減やキャンパスの美化を目的として、学内で販売されている弁当容器「ミンミ・リ・リパック」の回収活動や、ごみ拾いをしながらポイ捨てをしないように呼びかける活動などを行ってきています。その中でも、「ミンミ・リ・リパック」の回収活動は特筆すべきものであり、学内各所に設置されている回収容器を部員自身が回収に回ります。そこで使用済みの弁当容器を回収し、それらをリサイクル業者に送ることで、再資源化を目指しています。これらの活動は、当団体の学生が提唱して始めただけでなく、今日に至るまで何年にもわたって継続して行っています。

このような活動は環境に関するボランティア活動とみなすことができますが、ボランティアとなると、とかく継続的に行動することが望まれるようです。当団体では先の「ミンミ・リ・リパック」の回収活動を継続して行っており、まさにこの「継続性」を実現しています。これにより一定の効果をあげており、その意味では誇れるものといえるでしょう。ただし、そのような活動ができるのも周囲の方々のご理解やご協力によるものであり、そのことは心に留めておくべきでしょう。また、活動自体のことについてより多くの人に知ってもらうことが大切であるといえます。広報活動によりボランティア精神などはもとより、活動そのものの目的や趣旨、目指している目標をより多くの人と共有できる機会が生まれます。

私共が開催した環境週間においては、「週間から習慣へ」を標語に、慶應義塾大学日吉キャンパスという身近なところから、多くの人々に忘れ去られている環境意識の改善を試みました。キャンパス内エコロジーの改善を塾生や塾関係者の目の届くところで行い、少しでも環境問題への意識を高めてもらいたいという願いから、身近で、見えやすい、わかりやすいエコを数多く行いました。「環境週間」というイベントをきっかけとして、少しでも多くの方が、環境対策を日常的なこととして捉え、身の回りから取り組んでくれるようになったならばこの上ない幸せです。

今年度の環境週間の開催に協力いただいた大学関係者をはじめとした多くの方々に心より感謝申し上げます。我々の活動を知っていただきたいという気持ちからこの報告書を作成いたしました。

## 目次

環境週間 2014 報告書の発行にあたり .....	1
環境週間 2014 概要.....	3
第一部 各企画 活動報告 .....	4
ミニミ回収率 UP 運動.....	5
北野大教授講演会「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」 .....	11
クリーンアップ運動 .....	13
キャンドルナイトライブ .....	16
メディアセンター企画展示.....	21
生協企画.....	25
第二部 運営報告 .....	30
広報.....	31
会計報告.....	40
環境週間 2014 総括 .....	41
お世話になった方々 .....	43

## 環境週間 2014 概要

メインテーマ：週間から習慣へ

「環境週間」をきっかけにして学生や教職員の方々が環境問題に興味を持ち、身近なところから「環境」を意識したライフスタイルを始めていただく機会としてこれを設定している。2002年の第1回環境週間からの一貫したメインテーマである「週間から習慣へ」という言葉にはそのような願いがこめられている。

### 開催概要

- 開催期間：2014年6月16日（月）～21日（土）
- 開催場所：慶應義塾大学日吉キャンパス
- 主催：慶應義塾大学環境サークル E.C.O.
- 開催企画一覧
  - ・ ミンミ回収率UP運動(ミンミシール、ミンミアプローチ)
  - ・ 講演会
  - ・ クリーンアップ運動
  - ・ キャンドルナイトライブ
  - ・ メディアセンター企画展示
  - ・ 生協企画

環境週間日程	朝(9:30～9:50)	昼休み(12:20～13:00)	5限・放課後
6月16日(月)	ミンミシール	ミンミアプローチ	講演会 (16:30～18:00)
6月17日(火)	ミンミシール	ミンミアプローチ クリーンアップ運動	キャンドルナイトライブ (19:00～20:00)
6月18日(水)	ミンミシール	ミンミアプローチ	クリーンアップ運動
6月19日(木)	ミンミシール	ミンミアプローチ クリーンアップ運動	
6月20日(金)	ミンミシール	ミンミアプローチ	クリーンアップ運動

第一部  
各企画  
活動報告

# ミンミ回収率 UP 運動

文責：佐藤幸太郎（商学部 2 年）

## 企画の狙い

ミンミ・リ・リ・パック(以下ミンミとする)とは生協、食堂、塾生会館で販売されている丼、カレーライス、幕の内弁当のリサイクル可能な弁当容器のことである。フィルムを剥がすと容器がリサイクルできるため、環境にやさしいといわれているが、それは回収率が40%を超えたときのみである。

昨年度の活動の結果、回収率は最高 31.6%まで上がったが、以前として 40%には達していない。ミンミ回収率 UP 運動を行うことで、更なる回収率の向上と、塾生にミンミについて知ってもらい、環境について考えてもらうきっかけとなることを目標とし、企画した。

## 企画概要

### (1) ミンミシール

日時：6月16日（月）～6月20日（金）

場所：生協1階

参加者：サークル部員（1日3～5人）

### (2) ミンミアプローチ

日時：6月16日（月）～6月20日（金）

場所：生協前・中庭・第4校舎、独立館ゴミ箱前

参加者：サークル部員（1日訳15人）

### (3) 生協食堂ディスプレイ

日時：6月16日（月）～6月21日（土）

場所：食堂

### (4) 三角メニュー

日時：6月16日（月）～6月20日（金）

場所：食堂1，2階

### (5) 生協バッジ

日時：6月16日（月）～6月20日（金）

概要：環境週間2014中、生協の職員の方々に生協バッジをつけていただくことで、環境週間の広報に協力してもらった。



図1：生協バッジ

#### 企画詳細

##### (1) ミンミシール

概要：

容器の蓋に、フィルムが剥がせるということを知らせるシールを貼った。生協開店前に入り、並べられた弁当容器の蓋にシールを貼った。すでに貼られている品質表示にかぶらないように気を付けた。

準備：

生協職員の方々に、容器の蓋にシールを貼らせてもらうことについて許可をとった。許可がとれたら、デザインを作成。シール台紙に1日140枚ずつ印刷した。サイズは縦2.5cm×横3.8cm。部員の参加者を募りシフトを作成した。

使用した道具：シール台紙、シールを剥がした紙を入れるためのビニール袋

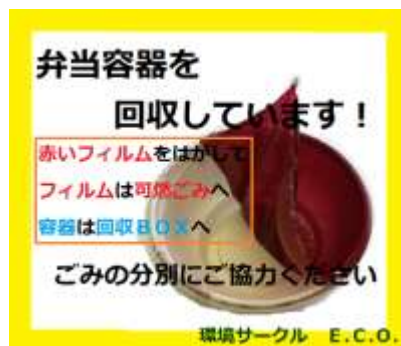


図2：ミンミシールのデザイン

## (2) ミンミアプローチ

概要：

昨年同様、昼休み時間中、弁当容器を捨てようとしている人に、フィルムが剥がせるということを説明し、実際にやってもらう活動に加え、ミンミ広報パネルを持ちながら校内を周り、塾生にミンミを回収していることをアピールした。またその際はクリーンアップ運動と一緒に校内を周ることで、注目度をあげようと試みた。

部員はエコ T シャツを着用して活動した。

準備：

塾生会館運営委員会に会館内での活動についての申請書を出した。また、部員の参加者を募りシフトを作成した。

使用した道具：ミンミ広報パネル、E.C.O.の T シャツ

## (3) 食堂ディスプレイ

概要：

食堂ディスプレイに、弁当容器リサイクルについての静止画を流す。

準備：

指定されたサイズで、パワーポイントを作成した。学生部に許可をいただいた。

## (4) 三角メニュー

概要：

食堂の1階と2階に環境週間の告知とミンミのフィルムをはがす工程を示した▽メニューを100個設置した。

準備：

生協と学生部に設置の許可をいただき、三角メニューのデザインを考えた。メニューにはラミネート加工を施し、組み立てた。また、設置の際には三角メニューが倒れないよう、ペットボトルをおもりとして用意した。

使用した道具：

ラミネート加工機、ペットボトル、カッター、定規、はさみ





図 3 : 三角メニューのデザイン

#### (5) 生協バッジ

概要：

生協購買部や書店、食堂など、生協で働いている方々に「環境週間」と書かれたバッジをつけていただいた。

準備：

生協の方に許可をとった。バッジは例年使用しているものを用いた。

効果

(1) ミンミ回収量

表 1: ミンミ回収個数

17日(火)	中庭	大 19
18日(水)	食堂3階	大 12・カレー2
	12前	大 17・小 3・幕 1
	11前	大 1
	学事隣	0
	14前	大 2
19日(木)	J412前	大 2・小 1
	4校舎B棟	大 5
	J11	大 1
	J412	大 1・小 4
	第4校舎B入口	大 5・小 5・幕 1
20日(金)	J24・29前	小 3
	中庭	大 4
	J412前	小 1
	12前	大 19
	食堂3階	大 15

※大：どんぶり大、小：どんぶり小、幕：幕の内

表 2: ミンミ回収個数 (合計)

どんぶり大	どんぶり小	カレー	幕の内	合計
103	17	2	2	124

(2) ミンミ回収率

表 3: ミンミ回収率 (昨年比)

	2013年度	2014年度
4月	20%	18.40%
5月	14.90%	26.90%
6月	23.60%	32.50%

表より、今年度も6月の回収率が高くなっていることが分かる。また、昨年度の同時期の回収率と比べても、回収率が改善されていることが伺える。

## 反省点・改善点

### (1) ミンミシール

- ・文字が小さく、デザインがよくなかった。シールのサイズはこれ以上大きくできないため、改良は不可。
- ・生協前で拡声器を使ったアプローチをするなら、シールは必要ない。
- ・来年度はやらなくてもよい。

### (2) 三角メニュー

- ・どれくらいの人が注目したかが不明
- ・デザインはよく、管理も大変でないので、来年も設置してよい。

### (3) ミンミアプローチ

- ・ミンミを捨てに来るのは昼休み後半であったため、活動の時間を遅らせるべき。
- ・ゴミ箱の前に立つのは威圧的であるため、やめた方がよい。
- ・クリーンアップ運動と一緒に活動すると、目立たせることができる。

## 今後の展望

2013年の環境週間から継続して、ミンミ広報パネルを校内のゴミ箱に設置していたことで、継続したミンミの広報が可能となり、その結果回収率も向上している。しかし目標の40%を超えるには、更なる広報の仕方を考える必要がある。

また、今後三田祭等でもミンミのアプローチをするので、その際により効率が良く、また、強制的にならないアプローチの仕方を考えていきたい。

## 北野大教授講演会「地球環境を救う新しいライフスタイルへ」

文責：今泉慧輔（法学部2年）

### ねらい

講演会に参加してもらった参加者に環境について興味を持ってもらうこと。近年においては、様々な地球環境の長期的な問題に直面している。しかしながら、環境問題がますます重要視されるようになってきているにもかかわらず、その具体的な知識を持ち合わせている人は少ないのが現状である。そこで環境についての総合的な見識を深めてもらうことで、環境を保全していくための方策や問題への解決策などについて多くの人に考えてもらうということが大きなねらいである。

### 企画概要

開催日時：2014年6月16日（月）16:30～18:00

開催場所：日吉キャンパス D203 教室

参加者：約20名

### 企画詳細

環境問題についての講演を数多くされている淑徳大学教授の北野大様に、スライドを中心にした主に講義形式の講演を90分程度していただいた。内容としては、環境問題に関する総合的な視野を養うものがメインであり、今までの環境政策や過去の歴史的な事実にも触れながら、これからの環境政策等のありかたについて考えていくものであった。お話の中には一般の大学生のレベルでは理解が難しい事柄もあったようだが、クイズ形式で参加者に問いかける場面も多くあり、理解がより深まるような時間となった。

### 準備

- 1月頃 講演者様に企画の趣旨等を封書にてご案内
- 3月上旬頃 講演者様の決定
- 5月上旬 教室使用・教室設備使用に関する申請

講演会場および控室の手配については、日吉学生部学生生活担当の窓口を通して申請し、使用許可をいただいた（ただしこれは今回限りのものであることに注意）。本来であれば公認学生団体が使用許可をいただけるのは、第4校舎A棟1F～4Fの小教室、B棟大教室(12,13,22,23,32,33)のみなのだが、先般の諸事情を考慮していただき、今回限り独立館の大教室(D203)に使用許可が下りた。控室用については、こちらも今回限りではあるが、別途独立館の小教室(DB109)を使用させていただくことができた。

一方で、教室の設備使用（教室備え付けのプロジェクター・スクリーン・無線マイク・

有線マイク・PC等の使用)については、それとは別途申請が必要であり、企画書提出を前提に、会長教員の推薦・署名が必要という運びとなった。こちらの点についても、諸般の事情を考慮していただき、今回限り推薦・許可をいただいた。

#### 効果・良かった点

ふだんお話を聞くことのない他大学の教授の方をお招きしての講演は、それほど開催できるものではないので、参加者の皆さんには印象に残りやすいものであったものと思われる。質問形式を取り入れ、参加者の方の理解がより深められるような構成になっていたのので、参加者自身に今後のことについて考えてもらうことのインセンティブになったものと考えられる。

#### 反省・改善点

主催者側のスタッフの間でもう少し緊密な連携・協議ができていると良かった。準備はそれなりに順調に進んでいたものの、時間をとってゆっくりと丁寧にメンバーの間で協議していったほうが良かったのではないかと感じるがあった。今後どのような企画を進めていく上においても、準備の各段階で定期的の確認・点検し、スタッフの間で協議する場を積極的に設けることが重要となりうるだろう。

#### 今後の展望

企画を開催するにあたり、参加者の興味を引くにはどのような内容の企画にしたらいいかについて、今後も積極的に考えていき、より満足のいく企画を作り上げていけるようにしていきたい。

## クリーンアップ運動

文責：野田千晶（文学部2年）

### ねらい

一番の活動のねらいは、塾生の環境意識の向上である。私たちがゴミを拾っている姿を見てもらうことで、環境週間自体の周知と、ポイ捨て防止への効果も目的としている。

### 概要

・6月17日(火)

12:25 藤山記念館前集合

ルート：日吉キャンパス

参加者：サッカー部8名、ラクロス部6名、E.C.O.部員



・6月18日(水)

18:15 諭吉前集合

ルート：ひょうら（2グループ）

参加者：航空部1名、ラクロス部4名、E.C.O.部員



・6月19日(木)

12:25 藤山記念館前集合

ルート：日吉キャンパス

参加者：サッカー部8名、ラクロス部6名、ラグビー部約50人、E.C.O.部員



・6月20日(金)

18:15 諭吉前集合

ルート：ひようら（2グループ）

参加者：サッカー部8名、E.C.O.部員



### 詳細

今年のクリーンアップは、昼休み二日間、放課後二日間の計四日間行った。クリーンアップをアピールする看板が壊れかけていたため、改めて作り直した。その際、以前よりも目立つ色を使用し、掲げる言葉は、「E.C.O.」や「クリーンアップ」といった内輪向けのものだけではなく、「ゴミはゴミ箱へ」など、誰にでもわかりやすい標語のようなものも付け加えた。

コースは各 15～20 分の所要時間を見込んで設定し、拾ったゴミは E.C.O.が分別し直した。昼休みはミンミアプローチと重なっていたが、體育會の参加人数が多かったため、人員不足にはならなかった。

雨天時は、昼休みのときは 9:00、放課後のときは 16:15 までに中止の判断をするようにしていたが、幸い四日間とも通常通り行うことができた。

### 効果・良かった点

四日間にわたり、毎日體育會の方々に参加して頂き、日吉キャンパスとその周辺においてアピールするには十分な人数を集めることが出来た。エコ T シャツを着用の上、拡声器も用いたため、サークルとしての統一感もあり、目立ったと思う。

1 グループの人数を 10 人程度にすることで、手持ち無沙汰にならずに、各々がゴミ拾いに参加することが出来たと思う。



## 反省・改善点

體育會の一部と連絡がとれなくなり、正確な人数を把握しないまま当日になってしまう日があった。外部団体と関わる上で仕方がないことではあるが、もっと連絡をスムーズに取りたいところである。

體育會の各部に参加を依頼するメールを送ったが、その時点で参加を表明して下さった部はサッカー部のみであった。その他は知り合いの伝手により、依頼を再度行った。結果的には多くの體育會が参加して下さったのだが、来年以降に不安が残る依頼の方法となってしまった。體育會の部室に直接行って交渉するという案が出ていたが、伝手により多くの人数を呼べそうということで行わなかった。知り合いに頼りすぎてしまったことは否めない。

この企画は E.C.O.の企画であるにも関わらず、體育會に協力している団体として見られてしまっているように感じられた。拡声器を體育會の方に任せてしまったことが原因のひとつかもしれない。拡声器で呼びかける内容を事前に考えておき、私たちが拡声器を使用すべきであった。

## 今後の展望

外部と合同で企画を行ったほうがクオリティの高いものになると思うので、今後も體育會へ参加を依頼することは続けた方がいいのではないかと思う。體育會の方は昼休みの方がより参加しやすいのだと思われる。

来年は、早慶戦でお世話になっている應援指導部に呼びかけたい。





# キャンドルナイトライブ

文責：本山早葵（商学部2年）

## 【企画のコンセプト】

廃油を再利用したキャンドルとアコースティックギターで電気を使わないキャンドルナイトライブを開催することで、エコな過ごし方について考えるきっかけを塾生、塾関係者に提供することを目的とする。また大学公認団体である Folk Lovers' Association 様（以下 FLA）の協力の下でライブを行うことで、エコに興味がない塾生や塾関係者にも参加して頂き、楽しみながらエコを身近に感じてもらうことも狙いである。

## 【企画概要】

開催日時：6月17日（火） 19:00~20:00

開催場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 中庭

参加人数：約90人

廃油を再利用して環境に優しいエコキャンドルを作り、環境週間中の放課後に、エコキャンドルを照明に使ったライブを行う。ライブは FLA に1時間ほどの演奏をして頂いた。なおキャンドル作りは事前に E.C.O.サークル部員が行い、当日キャンドルを灯すと同時にパンフレットを用いてエコキャンドルについての説明を行った。

## 企画詳細

廃油は日吉キャンパス食堂棟2階グリーンズマルシェ様より一斗缶で10L提供していただき、約500個のキャンドルを製作した。製作は日吉に一人暮らしをしている E.C.O.部員の家で行い、キャンドルが風で飛ばされないよう日吉キャンパス内で回収されているペットボトルを使ってキャンドルホルダーも作成した。



[写真はキャンドル製作の様子(左)と完成したキャンドルをホルダーに入れた様子(右)]

宣伝は環境週間 HP、Facebook、Twitter の他、開催前週金曜(6月13日)と前日月曜(6月16日)の昼休みに他企画合同のチラシを2日合わせて200枚日吉キャンパス内で配布した。また、当日昼にはミンミアプローチと同時に看板を用いて声掛けを行った。



[写真は配布したチラシデザイン(左)と看板(右)]

当日は準備、防火対策、安全対策のために E.C.O.メンバー約30人の協力の下に行った。演奏開始前に FLA の方に協力していただき、E.C.O.で用意したアンケートと曲目を書いたパンフレットを来場者に配布した。(アンケート結果は以下に記載)



[写真はパンフレット(左)と本番の様子(右)]

## アンケート結果

回収数 3枚

① この企画をどこで知りましたか？

- ・FLA・E.C.O.の知り合いから
- ・寮の先輩から
- ・口コミで

② 満足度(5段階評価)

- 4. 満足…1人
- 5. 非常に満足…2人

③ 感想・意見等

- ・キャンパス内の明かりを消せたらよかった。
- ・中庭のベンチ近くならキャンドルが生きて観客の一部もベンチに座れるのもっと良いのではないか。
- ・静かな雰囲気が良かった。

## スケジュール

### 【当日まで】

- 3月31日 グリーنزマルシェに廃油の提供を依頼
- 4月6日 FLA 代表者に企画協力を打診
- 4月7日 廃油を受け取り、学生部にて保管
- 4月21日 学生部にキャンパス内のペットボトル使用を打診し許可が下りる

- 4月22日 FLA とミーティング
- 5月8日 学生部に中庭使用許可申請書を提出
- 5月24日 第一回キャンドル製作
- 6月3日 集積所にてペットボトルを回収
- 6月4日 第二回キャンドル製作
- 6月5日 定例会にてキャンドルホルダーを作成
- 6月7日 第三回キャンドル製作
- 6月11日 3R ミートにて当日の流れ確認と作業
- 6月13日 昼休みにチラシ配布  
定例会にて看板、パンフレット作り
- 6月16日 昼休みにチラシ配布
- 6月17日 キャンドルナイトライブ当日

#### 【当日】

- 昼休み 看板を使った宣伝
- 17:00～ 会場準備
- 18:50～ キャンドル点灯
- 19:00～ ライブ開始
- 20:00～ ライブ終了・片づけ
- 20:30 撤収・解散

#### 反省点

##### ○良かった点

- ・ E.C.O.と FLA サークル員を含め約 90 人と多くの方に参加して頂けた。
- ・ 環境週間の中でも特にイベント要素の強い企画として、環境週間を盛り上げる一つのきっかけになった。
- ・ E.C.O.新入生がサークル活動に積極的に関わる良い機会であった。
- ・ FLA としても外部演奏ができる機会として良かった。

##### ○改善すべき点・問題点

- ・ キャンドル製作にかなり時間がかかり、日吉に住む部員の負担が大きい。
- ・ キャンドル点灯時間は平均として 10 分未満と短く、消えたキャンドルの交換に多くの人数が必要になってしまったため、キャンドルの性能をもっと改善した方が良かった。
- ・ 中庭付近で練習をする音楽サークルの方々に本番前に演奏をやめていただくよ

うお願いをしたが、ライブ後半で練習が始まってしまった。事前に文面で伝えるべきであった。

- ・ キャンドルナイト開催経験のある他の大学に意見をいただくべきであった。

## 今後の展望

キャンドルナイトライブは2010年度の環境週間で一度開催歴があるイベントである。しかし、今回はその規模を拡大するためにキャンドルの数を70個から500個に増やした。数を増やすことで準備期間・当日ともにサークル員の負担が増えた部分もあったが結果、ライブ中は常にキャンドルが灯った状態を保つことができた上に、作業自体がサークル員同士の団結につながったという意見もあり良かったと感じている。今回のキャンドルナイトライブ実施が決定した際、この企画の長所として「廃油を使いエコの要素を取り入れつつも、音楽サークルのライブという形を取ることで環境に興味が無い塾生にも参加しやすい」という点が挙げられた。今年の結果では人数としては予想より多くの方に参加して頂けたが、まだまだ関係者が大半、というのが現状である。また、ライブを強調しすぎたために何を伝えたいのか曖昧になってしまったという意見もあった。これらの反省を踏まえて来年以降この企画をやるにしてもやらないにしても、塾生の目線に立ち、関係者でなくても参加したいと思える企画作り、そして目的の明確化が重要であると考えます。

# メディアセンター企画展示

文責：田村彩葉（理工学部2年）

## ねらい

日吉メディアセンターにて、環境に関する本とその紹介をするポップの展示をし、塾生の環境に対する意識を向上させるとともに、それが環境についての正しい知識を得るための一助となるようにする。また当サークルの新入生に環境に関する本に触れる機会を与え、サークル員として持つべき知識と環境意識を持たせるようにする。さらに本大学で使用されているミンミ・リ・リパックについて模造紙に紹介を書いたポスターを展示し、ミンミ・リ・リパックの認知度を上げるとともに回収率のアップを目指す。

## 概要

日時：6/7（土）～6/28（土）

場所：日吉メディアセンター 1階から2階へ続く階段踊り場

内容：環境に関する本、ミンミを紹介するポスターの展示、環境に関する本の紹介リスト配布（フリーペーパー形式）

参加者：環境教育メンバー、新入生

## 詳細

### 環境に関する本の紹介

新入生に本についてのポップをかいてもらい、本の実物とともに展示した。展示した本は以下の16冊である。※（）内は著者

- ・ 図解雑学—環境問題（安井至）
- ・ +6°C地球温暖化最悪のシナリオ（マーク・ライナス）
- ・ 地球と一緒に頭も冷やせ！（ビョルン・ロンボルグ）
- ・ 田んぼの生き物誌（稲垣栄洋）
- ・ ため池の自然（浜島繁隆）
- ・ 私の地球遍歴（石弘之）
- ・ エコ罪びとの告白（フレッドピアス）
- ・ 地球のなおし方（ドネラ・H・メドウズ、デニス・H・メドウズ、枝廣淳子）
- ・ 文系人のためのエネルギー入門（考エネルギー社会のススメ）（小池康郎）
- ・ とけてゆく地球（ジェームズバローズ）
- ・ 環境文化を学ぶ人のために（多田道太郎）

- ・レジ袋がなくなる日（環境問題を考える編集者の会）
- ・文系のためのエネルギー入門（Richard a Muller）
- ・グリーン経済最前線（井田徹治、末吉竹次郎）
- ・環境主義は本当に正しいか（ヴァーツラフ・クラウス）
- ・エコ・エコノミーを考える（福岡克也）





## ミンミを紹介するポスターの展示

新入生を交えたミーティングで、塾生にミンミを紹介するポスターを描き、展示した。



## 環境に関する本の紹介リスト（フリーペーパー形式）

環境教育の2年生5人で、それぞれおすすめの本を選び、請求番号や在架場所を記してまとめ、フリーペーパー形式で配布した。

### 効果・良かった点

今年度のメディア展示企画では、昨年度から以下の点を改善した。

#### ・展示場所の変更

昨年は日吉メディアセンターの1階ラウンジスペースで実施していた。しかし、そこでは塾生はパソコンや読書に集中していたり、距離的にも座った位置からではポップの字が見えなかったりした。そのため、より塾生の目に触れやすい、階段踊り場へと展示場所を変更した。

#### ・宣伝活動

昨年はそもそも環境に関するメディア展示を行っていることを知っている塾生が少な



った。そこで今年は3Rのキャンドルナイトライブ・北野大氏講演会とともにチラシを作成し、6/13（金）と6/16（月）の昼休みにキャンパス内で配布した。

- ・ミンミ紹介ポスターの工夫

昨年の模造紙は文字の割合が多く、塾生の目を引きにくかった。今年は、図や色を豊富に使ったり、ミンミの実物をポスターに貼り付けたりして、塾生が読んでみようと思えるような模造紙作成を心がけた。

- ・サークル員の環境意識

当サークルの新入生は環境の知識と意識を持つことができ、メディアセンターで環境に関する本を定期的に借りる新入生も現れた。

また、メディア展示企画を行った結果、以下の3冊の本の貸し出しがあった。

- ・+6°C地球温暖化最悪のシナリオ（マーク・ライナス）
- ・レジ袋がなくなる日（環境問題を考える編集者の会）
- ・グリーン経済最前線（井田徹治、末吉竹次郎）

### 反省・改善点

- ・一見何に関する展示なのかわかりにくかった。そのため、次回はメディア展示を宣伝するポスターを作製し、メディア内などに掲示する必要があると考えた。

- ・本の貸し出しはあったが、より多くの本が貸し出されるためにはもっとメジャーな本を選ぶべきであった。塾生が本の題名は聞いたことがあるが、読んだことがない本を展示本として選ぶことで、より興味を引けたかもしれないと考えた。

- ・環境に関する本の紹介リスト（フリーペーパー形式）は初の試みであったが、手に取ってくれた塾生は非常に少なかった。実施意義について再検討が必要である。

### 今後の展望

もし今後も環境週間中に環境教育プロジェクトとしてメディア展示を行うのであれば、どうすればより人目を引くか、選定した本の貸し出しが増えるかということを考えていく。今年は生協企画として、生協2階で環境に関する本の展示を行ったが、準備過程がメディア展示と似通っているため、来年度は環境教育がメディア展示とともに行うことも視野に入れていく。

## 生協企画

文責：佐藤幸太郎（商学部2年）

### 企画の狙い

多くの塾関係者が利用する日吉生協は、環境意識を喚起するのに非常に効果的な場所であると考えられた。塾生へ環境問題を訴えることを目標に掲げ、生協のご協力のもと、サークルの力だけでは困難な環境意識向上のための周知的・拡散的活動を展開していくことを目指した。

### 企画概要

開催日時：6月16日（月）～6月30日（月）

開催場所：慶應義塾生活協同組合日吉店1階購買部、2階書籍部

#### ○生協1階 購買部

1階購買部では弁当容器のリサイクル<sup>注</sup>を促進するPOP及び、学内での容器リサイクル回収率を掲載したPOPを掲示した。

#### ○生協2階 書籍部

環境関連書籍を選書し、「環境週間特集」の企画棚を作製した。E.C.O.部員おススメ作品や原発・エネルギー問題の話題作など、環境分野の作品を幅広く取り扱った。

注…生協で販売されている弁当容器はリサイクル弁当容器「ミンミ・リ・リパック」（以下「ミンミ」とする）を採用している。我々E.C.O.は1年間通してミンミの回収活動に取り組んでいる。

### 企画詳細

2階書籍部では、以下の書籍を販売した。

書名	出版社	著者
Q&A 環境問題 50 / 三菱総合研究所環境・エネルギー研究本部編	日本経済新聞出版社	三菱総合研究所環境・エネルギー研究本部 編
最新環境問題の基本がわかる本：ポケット図解：地球との共生と持続可能な発展	秀和システム	門脇仁
世界の環境問題. 第6巻, 極地・カナダ・中南米	緑風出版	川名英之

環境の科学と技術：知っておきたい基礎知識	日経 BP 社	日経エコロジー 編
日本発!世界を変えるエコ技術	ポット出版	山路達也
バイオマスエネルギー 問題と実情	森北出版	横山伸也・芋生憲司
よくわかる水リサイクルの技術	オーム社	藤江 幸一
「レジ袋」の環境経済対策 ヨーロッパや韓国、日本のレジ袋削減の試み	リサイクル文化社	舟木賢徳
21 世紀のライフスタイル<1>	研成社	北野大, 宮田秀明, 長山淳哉, 飯田芳男
21 世紀のライフスタイル<2>	研成社	北野大, 上田広, 松原健司, 岡島成行, 松田美夜子
21 世紀のライフスタイル<3>	研成社	上田広, 松原健司, 永江総宜, 岩村沢也, 北野大
エネルギー問題の誤解 いまそれをとく	化学同人	小西哲之
世界がもし 100 人の村だったら	マガジンハウス	池田香代子
本質を見抜く力 ー環境・食料・エネルギー	PHP 研究所	養老孟子
1 秒の世界	ダイヤモンド社	山本良一
1 秒の世界 2	ダイヤモンド社	山本良一
あなたが世界を変える日	学陽書房	Severn Cullis - Suzuki
2052	日経 BP 社	ヨルゲン・ランダース
沈黙の春 改版	新潮社	レーチェル・ルイス・カーソン
プロメテウスの罠 1	学研パブリッシング	朝日新聞特別報道部
プロメテウスの罠 2	学研パブリッシング	朝日新聞特別報道部
深海の Yrr 上	早川書房	フランク・シェッツィング
地球の掟 (新装版)	ダイヤモンド社	アル・ゴア
原発とメディア	朝日新聞出版	朝日新聞社
ザ環境学	勁草書房	小林光
絆の環境設計	九州大学出版会	土居義岳
水資源の科学	オーム社	鹿園直建

激変する気候	日本経済新聞出版社	住明正 編
E C O検定 4種類		
環境の仕事大研究〔第3版〕	産学社	安藤眞
よくわかる環境ビジネス	産学社	エコビジネスネットワーク編
危ない食品添加物ハンドブック	主婦と生活社	渡辺雄二

### 〈販売実績〉

『書名』	〈売上数〉
エネルギー問題の誤解いまそれをとく	1冊
2052	1冊
沈黙の春	3冊

合計売上数 5冊

### 実施までのスケジュール

2013年12月	生協職員に企画の件を伝達、企画書を作成
2014年2月	E.C.O.部員で企画詳細の打合せ、生協に企画書提出
3月	生協職員との企画打合せ、企画棚の選書開始
4月	選書の確認・修正
5月	生協2階職員に選書リスト提出、大POP作り
6月	1階購買部の企画詳細打合せ、小POP作り、企画棚作り
6月16日～	企画開始

## POP・企画棚の様子



### 良かった点

- ・選書テーマを指定せずに様々な分野の本を集めて、取扱い分野が偏らないように努めた。
- ・1階購買部・2階書籍部ともにPOPを作成して目立たせることができ、企画棚前で立ち止まってもらい、本を手にしていただくことができた。
- ・本というメディアでE.C.O.の注目する点を伝えられることがわかった。
- ・選書する上で我々E.C.O.部員の見識が深まった。
- ・我々が選書した本を学生が購入するというのは、少なからず我々の発信を受け止める学生もいたと考えられ、啓発することはできたと考えられる。

### 反省点・改善点

- ・手書きのPOPは良かったが、一部の本にしか作らなかったのもので、全ての本にPOPをつけて紹介するべきであった。
- ・選書するときの目標として、読むことで何が得られるのかということを確認する必要

があった。

- ・通りがかりの人でもわかりやすく手に取りやすい本も選定すべきであった。
- ・棚作りの仕方は改善の余地が多くあった。（「人気 No.1」や「おススメ」といった宣伝 POP 展示、書籍の並べ方の工夫等）

#### **今後の展望**

今回の選書には4人の人員を割いたが、次回以降は仕事量の偏りや書籍の多様性確保のために6人以上の部員で話し合いをする必要があると感じた。長期的な計画を立て余裕を持ち、E.C.O.部員の間で話し合いの場を多く設け、生協職員の方々と密に連携を取り合うことが望ましい。

# 第二部

# 運營報告

# 広報

文責：木曾可南子（商学部2年）

## 1. はじめに

2014年6月16日～6月21日に行われた環境週間2014において、慶應義塾大学日吉キャンパスに通う塾生を対象とし、環境週間の広報を行った。以下に示した目次の順に、報告させていただく。

## 2. ねらい

広報企画のねらいは、環境週間企画や「環境週間とは何か」を、慶應義塾大学生や、一般の方々に広く知っていただくことである。

## 3. 企画実施までのスケジュール

企画実施までの大まかなスケジュールは以下の通りである。

1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境週間の広報に協力していただけるよう大学内のメディアサークルへお声掛けをした。</li><li>・環境週間公式ホームページの作成をした。</li></ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"><li>・公式HPと環境週間公式HPを関連相互リンクした。</li><li>・環境週間公式ホームページの企画コンテンツを作成した。</li></ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・ポスターを作成した。</li></ul>
4月	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境週間ホームページを運用し始めた。</li><li>・環境週間の広報にご協力いただく団体と連絡し、連携させていただいた。</li></ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境週間公式ホームページに各企画担当者からのメッセージを掲載した。</li><li>・環境週間について記事を書いてくださる団体から各環境週間企画担当者がインタビューを受けた。</li></ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・環境週間の広報に協力していただける団体に環境週間に関する記事を書いていただき、団体のホームページやTwitterで宣伝していただいた。</li><li>・Twitter、Facebookへの投稿により、宣伝をした。</li><li>・横断幕やポスターを設置した。</li></ul>



#### 4. 企画詳細

この項では、広報での企画について詳しく述べる。

##### 4.1 ポスター

環境週間広報のためにポスターを作り、設置した。以下に作成したポスターの種類、その設置場所、設置期間について述べる。

###### ① ポスターの種類

ポスターは、以下の8つを作成した。

- (1) 環境週間 2014 全体ポスター
- (2) 環境週間 2014 全体ポスター（企画名掲載版）
- (3) ミンミ回収率アップ運動ポスター
- (4) キャンドルナイトライブポスター
- (5) クリーンアップ運動ポスター
- (6) メディア展示ポスター
- (7) 講演会ポスター
- (8) 「環」「境」「週」「間」

〔参照画像〕



図1：(1)環境週間 2014 全体ポスター

図2：(2)環境週間 2014 全体ポスター（企画名掲載版）



図 3 : (3) ミンミ回収率アップ運動ポスター 図 4 : (4) キャンドルナイトライブポスター



図 5 : (5) クリーンアップ運動ポスター

図 6 : (6) メディア展示ポスター



図 7 : (7) 講演会ポスター

図 8 : (8) 「環」「境」「週」「間」(4 枚で一組)

## ② ポスターの設置場所

以下にポスターの設置場所、ポスターの大きさ、枚数、種類を示す。

掲載箇所	ポスターの大きさ、枚数、種類
屋外掲示板の催物案内掲示板	A2×1 枚×(2)
第4校舎B棟入口わき（ガラス張りの場所：左右部分）	A3×1 枚×(1)～(8)
独立館B1F階段わき（ガラス張りの場所：右上部分）	A3×1 枚×(8)
第4校舎B棟内の柱（8か所）	A3×1 枚×(1)～(8)
J11 前ゼミ関連掲示板	A3×1 枚×(1)～(8)
J19 前ゼミ関連掲示板	A3×1 枚×(1)～(8)
学生総合センター掲示板（中庭）	A3×2 枚×(3)、(4)、(5)、(6) A3×1 枚×(8) A2×1 枚×(1)、(2)、(7)
矢上カフェテリアと生協	A3×1 枚×(2) (7)
立て看板5本	全て A3 サイズ、2 枚×(2)、3 枚×(4)、 1 枚×(6)、3 枚×(7)、1 枚×(8)

## ③ 設置期間

・2014年6月9日(月)～6月20日(金)

※新入生歓迎企画ではなく、公認学生団体による企画のため、設置期間が例年より短くなった。

### 4.2 横断幕

今年も例年と同じように横断幕による宣伝を行った。なお、今年は独立館へのスロープ入り口への設置は不許可となったため、設置場所が一か所となった。

- ・設置場所：第4校舎B棟中庭側の入り口
- ・設置期間：2014年6月13日(金)～6月20日(金)

〔参照画像〕

なお、この画像からは「主催：慶應義塾大学教養研究センター日吉行事計画委員会」との表記が、見えるが、適宜見えないよう配慮した。



図 9：環境週間横断幕(1)



図 10：環境週間横断幕(2)

#### 4.3 環境週間 2014 公式ホームページ

環境週間 2014 の企画を広く知らせるために、環境週間 2014 公式ホームページを開設した。

- ・ 設置場所： <http://ecoweek2014.keioeco.net/>
- ・ 設置期間：2014年1月12日～



〔参照画像〕 図 11：環境週間 2014 公式ホームページ

〔内容〕

環境週間企画の詳細、環境週間そのものに関する説明、環境週間企画担当者からのメッセージを、掲載した。また、環境週間に関するニュース（メディアサークルの HP に環境週間に関する記事が掲載された等）を見られるようにした。そして、トップページの左端に、環境週間の開催日程を載せる事で、環境週間 2014 の開催概要が一目でわかるようにした。さらに、環境週間の運営をしている団体として環境サークル E.C.O. が認知度を高められるようサークル公式ホームページ、公式 Facebook、公式 Twitter の情報を盛り込んだ。

#### 4.4 Facebook

環境週間 2014 の企画を広く知らせるために、公式 Facebook ホームページで投稿を行った。

- ・ 設置場所 : <https://www.facebook.com/keioeco>
- ・ 投稿日 : 2014 年 5 月 2 日、5 月 11 日、5 月 16 日、5 月 23 日、6 月 1 日、6 月 2 日、6 月 7 日、6 月 9 日、6 月 10 日、6 月 12 日、6 月 14 日、6 月 15 日、6 月 16 日、6 月 17 日、6 月 19 日、6 月 20 日



〔参照画像〕 図 12 : 環境サークル E. C. O. 公式 Facebook ホームページ

〔内容〕

環境週間企画の詳細、環境週間の説明を、写真や参照 URL を添付し掲載した。また、環境週間に関するニュースをお知らせした。

#### 4.5 Twitter

環境サークル E. C. O. 公式 Twitter (keioeco) で環境週間の宣伝を行った。内容は環境週間の企画内容についてだけでなく、その準備についても掲載した。その概要と結果を 3 点に分けて説明させていただく。

##### ① 投稿数

- ・ 投稿数…4 月 : 1 回、5 月 : 3 回、6 月 : 57 回

投稿数のデータから、4 月、5 月の投稿数が明らかに少ないことがわかる。環境週間の広報効率化の為には、直前の投稿だけではなく、長期にわたって投稿していくことが不可欠だと考えた。

##### ② リツイート数

Twitter を使った環境週間宣伝では、最もリツイート回数も多く、63 回だった。

③ 他団体に協力していただいたの広報

塾生新聞会、塾生総合研究所、慶應ジャーナル、慶應生協日吉店、慶應義塾大学日吉メディアセンターの Twitter アカウントで、環境週間の企画の宣伝及びサークル Twitter のツイートのリツイートをしていただいた。

4.6 その他

- ・他団体の公式ウェブサイトに環境週間における記事が掲載された。

[塾生新聞会] <http://www.jukushin.com/archives/19046>

[塾生総合研究所] <http://jukusei.org/807>

[慶應ジャーナル] <http://www.keio-j.com/special/feature/ecoweeek/>

[慶應義塾大学日吉メディアセンター]

メディアセンター企画展示の際にサイトのお知らせの欄に掲載された。

- ・塾生新聞会の新聞の4月号に環境週間の広告が掲載された。



図 13：塾生新聞会の新聞に掲載された広告

5. 環境週間広報の効果・良かった点

良かった点は、他団体と協力して環境週間広報を盛り上げていくことが出来た点である。

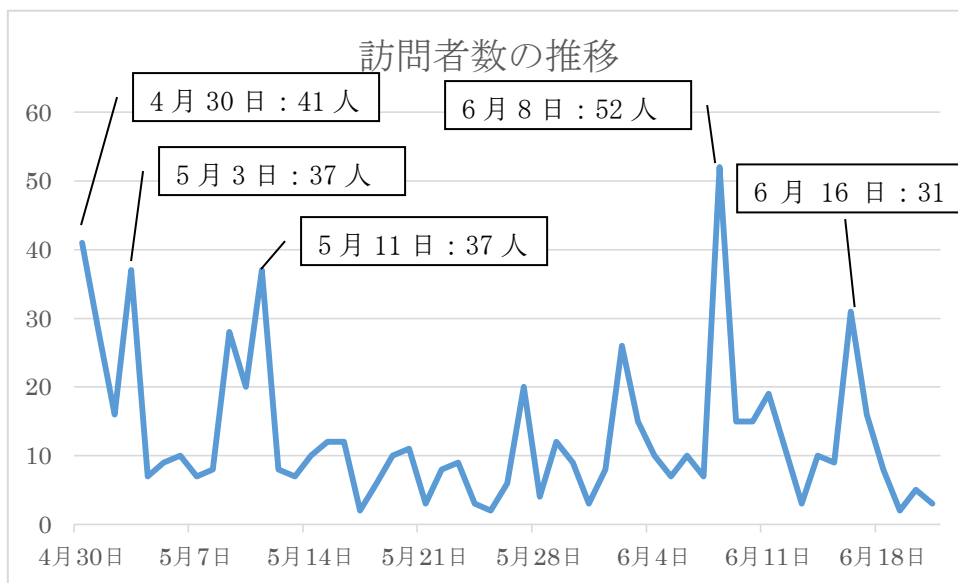
6. 環境週間広報の反省・改善点

環境週間広報で反省すべき点は人々に環境週間への興味を持たせられるような広報ができていなかった点である。さらに、環境週間公式ホームページの情報があまり更新されていなかったし、掲載されている情報が企画の内容のみであったために、ホームページで企画の魅力を伝えることはできていなかった。そこで、反省点と現時点で考えられ得る改善策を記す。

〔反省点 1〕

- ・公式ホームページのアクセス数が安定していなかったし、多いとは言えなかった。
- ・総ページアクセス数：1743 ビュー
- ・一回の訪問あたりに閲覧するページ数：2.54 ビュー  
(総ページアクセス数÷総訪問者数で計算した。)
- ・平均閲覧時間：2分 17秒

図 19：公式ホームページの訪問数の推移（2014年4月30日～2014年6月21日）  
(グーグルアナリティクスより筆者作成)



〔反省点 1 に対する改善案〕

- ・サークル Twitter や Facebook を更新すると、ホームページの訪問者数も増加するので持続的に Twitter や Facebook の更新が必要である。
- ・人々に、継続して環境週間公式ホームページを閲覧していただくために、環境週間公式ホームページの更新を頻繁にすることと内容の充実を図ることが必要である。

〔反省点 2〕

- ・講演会の宣伝が足りていなかったし、講演会の聴衆目線の広報がなされてなかった。

〔反省点 2 に対する改善案〕

- ・講演会の宣伝回数を増やさなければならない。



・ SNS で情報発信する時には、人々が聞きたくなるような講演会はどのようなものかをしっかりと考えて、文章や写真を投稿しなければならない。

〔反省点 3〕

・ ポスターをたくさんの場所に貼ったのだが、人の目に入っていなかった。

〔反省点 3 に対する改善案〕

・ 来年はポスターのデザインを考え直すべきである。

(目立つ色を使う、色に統一感を出し目立たせるなど)

・ ポスターにどのような情報を織り込むべきか吟味すべきである。

(講演会やキャンドルナイトライブのポスターに「参加無料、入退場自由」などの情報を入れるべきかどうかなど)

・ ポスターを早め早めに掲示できるようにする。

〔反省点 4〕

・ SNS での環境週間に関しての本格的な宣伝開始が企画 1 か月前からとなってしまった。

〔反省点 4 に対する改善案〕

・ SNS を使った環境週間の宣伝は 4 月から始めるべきだ。

〔反省点 5〕

・ 環境週間に興味を持ってくれた人が、サークルの公式 Twitter や Facebook ページを検索しても、検索でヒットしないために、検索でのアクセスの取りこぼしが多くなってしまった。

〔反省点 5 に対する改善案〕

・ 早急に Twitter や Facebook のプロフィール内容を検索に引っかかりやすいものに変える必要がある。

## 7. 今後の展望

Twitter や Facebook の投稿は回数を多くしたほうがよいのか、それとも 1 回の投稿文の内容を濃くするほうがよいのかを考えていくべきだ。広報を行う上でどの媒体を優先して使い、情報を発信していくかを定めるべきである。SNS での情報発信は今後も持続していかなければならない。しかし、宣伝チラシを塾生に手渡す、ポスターや横断幕を目立たせる、拡声器を使って宣伝する等、人の耳や目に、直接的に環境週間の情報を伝えていく努力が必要である。



# 会計報告

文責：常石潤矢（経済学部 2年）

企画名	用途	金額	小計
キャンドルナイトライブ	灯油ポンプ	99	
	ガスボンベ	238	
	着火マン	400	
	鍋	410	
	アルミカップ	167	
	計量カップ	108	
	おたま	108	
	タコ糸	108	
	凝固剤	432	
	アロマオイル	540	
	クレヨン	108	
	アルミカップ追加	108	
	タコ糸追加	108	
	プリントカード(チラシ、パンフレット印刷代)	2000	
	模造紙	108	5042
講演会	色画用紙	108	
	講演料(振込手数料込)	32,832	
	水・お茶	444	
	花束	3,240	
	お菓子	1,240	37864
クリーンアップ運動	模造紙	540	
	画用紙	216	756
ミニミ回収率アップ運動	シール印刷代	1,000	
	ラミネーター	7,580	
	フィルム	1,180	9,760
その他	宣伝用ポスター	1,650	
	塾生新聞掲載費	18000	19,650
	合計		73,072

## 環境週間 2014 総括

本山早葵（商学部 2 年、環境週間担当）

### HAPP 企画から E.C.O.主催企画へ

今年度の環境週間は、2004 年度以来新入生歓迎企画として支援を頂いていた日吉行事企画委員会(以下 HAPP)様の主催を離れ、E.C.O.が主催となって行った。HAPP 企画から外れたことで今年度の環境週間が大きく変わったのは以下の 3 点である。

1 つ目は、運営資金をすべて E.C.O.サークル費から捻出する必要が生じた点である。環境週間初日に行った講演会において、講演依頼の際には予算が大きな問題となり、各企画を必要最低限の予算で運営に取り組むこととなった。予算制約が厳しい中で小規模効率化を目指して取り組んだ。

2 つ目は、HAPP 主催を外れ大学公式行事では無くなったために、昨年と比較するとキャンパス内で行える広報の数が限られた点である。目立つ箇所としては、日吉駅から見える独立館前の横断幕による広報ができなかったことが挙げられる。

3 つ目は、HAPP 企画では無くなったために新入生歓迎という趣旨を企画に盛り込む必要が無くなり、より塾生全体に働きかけられる企画の開催が可能となった点である。例えば、昨年度の環境週間では E.C.O.の新入生と早稲田大学の環境サークル「ロドリゲス」の新入生が互いに環境問題についてプレゼンテーションを行い問題解決のために話し合うワールドワークを新入生歓迎企画として行ったが、今年度はワールドワークを開催しない代わりに生協企画を行った。これは、日吉キャンパスの生協に環境に関する書籍を集めたコーナーを環境週間を含む約 3 週にかけて設置させて頂いた企画であり、新入生だけでなく塾生全体を対象とした企画であったと言える。

以上のように HAPP 企画を離れ E.C.O.企画として今年度の環境週間を行い新しく生じた問題を通して、HAPP 企画だから出来た事、E.C.O.企画だから出来る事を実感した。

### 課題と来年への展望

以上を踏まえてこれから解決しなければならない課題は主に 2 つある。

1 つは、集客の問題である。今回の環境週間では、集客が大切となる企画が「講演会」と「キャンドルナイトライブ」の 2 つであったが、いずれもポスターやチラシ、Facebook、Twitter を用いて広報を行ったにも関わらず観客がほとんど関係者のみで構成されてしまう事態となってしまった。これについては、ポスターの色が目立たなかったこと、チラシをキャンパスを歩く塾生に当てもなく配ったこと、SNS で宣伝を行っても宣伝範囲が限定されてしまうこと、が反省として挙げられた。改善策としてはポスターを原色一色のテーマを元に作成する、チラシは塾生会館の部室など特定の団体が集まる場所に赴き直接勧誘をする等が考えられる。

2つ目はサークル員の連携に関する点である。PJが主体となっていた企画(メディア展示、クリーンアップ、ミンミアプローチ、キャンドルナイトライブ、広報活動)は環境週間担当からPJリーダー、PJメンバーへ指示をする体制を取ることで混乱無く企画を進めることができた。しかし環境週間担当が受け持った企画、特に講演会では講演者への交渉や連絡を取る局面でメンバー同士の連携が上手く取れず事後報告が多く見受けられたことが反省点である。これを防ぐためには担当者間で早い時期から役割分担を行い計画的に企画を進める努力が必要である。

来年の展望としては運営面に関して2点引き継いでいきたい事項がある。1つは企画決定の時期である。昨年度の反省から今年度は企画決定を10月中と早い時期に行うことで計画的に企画準備を行うことが出来た。2つめに、担当者に関しては現在の2年生3人と3年生2人という構成にすることで2年生だけでは分からない、経験を元にしたサポートを3年生の方々にして頂くことが出来た。

これらの課題、続けていくべき事項は次の学年にしっかり引き継いでいくだけでなく、これまでの環境週間経験者が新2年生の相談に積極的に乗る体制を整えることを重視していこうと思う。

## おわりに

今年に入り環境週間の準備をする中で、関わった塾生に「E.C.O.ってお弁当容器回収してるサークルだよな？」と声を掛けて頂く機会が増え、少しずつではありながらも環境に関する活動に興味を持つ塾生が増えていることを実感した。しかし一方で、認識はされているものの私たちの活動が何を目的としているのかは知らない人がまだまだ多いのも事実である。環境週間を通して、環境に興味を持って頂くだけでなく、これからはその先の「環境を守るために私たちに何ができるのか」を伝えることで環境週間を塾生にとってより意味のある企画にしていきたいと考える。

最後に、今年度も環境週間を開催するにあたり多方面でご尽力頂いた職員の服部剛久氏、土田平和氏をはじめとする大学関係者の皆様に部員一同深く御礼申し上げますとともに、今後とも私ども環境サークル E.C.O.の活動にご理解とご協力を賜ります ようよろしくお願ひ申し上げます。

## お世話になった方々

本年の環境週間も塾内外を問わず様々な方々のご協力のもとに開催することができました。  
この場をお借りして部員一同深く御礼申し上げます。

### 【団体】

アコースティックギターサークルFLA

慶應義塾体育会

慶應義塾生活協同組合

慶應義塾大学日吉メディアセンター

慶應ジャーナル

慶應塾生新聞会

### 【個人】

北野 大氏（淑徳大学人文学部表現学科教授）

土田 平和氏（慶應義塾大学通信教育部）

服部 剛久氏（慶應義塾大学日吉学生部学生生活担当）

（50音順）

